

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

138

## 加齢性疾患

世界で高齢化が急速に進行している。日本の65歳以上の人口は29・1%（2021年）から37・7%（50年）になるとの政府推計がある。平均寿命の延伸とともに、健康上の制限なく日常生活が可能な健康寿命も延伸したが、その差である約10年間の不健康期間が問題だ。健康寿命の延伸を阻害する主な要因が、循環器疾患などの加齢性疾患である。人々が健康に長生きをするため、対策が必要だ。加齢性疾患対策では、老化と加齢性疾患のメカニズムの理解、

診断・治療技術の開発  
医療提供体制・法規制の整備、公衆衛生施策

伝子変異による寿命延伸に伴いマウス体内に蓄積する老化細胞を除去する。例えば、多臓器連関、血液循環、代り、主に米国で、ヒト老化制御に関するスタ

善し寿命が延びた。このように、わが国が強い分野が老化と深く関係する。さまざまな生物種融合研究を推進する

融合研究を推進する。将来的に、老化はあ者、および産官民の関

融合研究を推進する。将来的に、老化はあ者、および産官民の関

融合研究を推進する。将来的に、老化はあ者、および産官民の関

# 老化制御で健康長寿社会実現



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター 辻 真博  
フェロー（ライフサイエンス・臨床医学ユニット）

東京大学農学部卒。ライフサイエンスおよびメデイカル関連の基礎研究（生命科学、生命工学、疾患科学）、医療技術開発（医薬品、再生医療・細胞医療・遺伝子治療、モダリティ全般）、医療ケア、研究環境整備などさまざまなテーマを対象に調査・提言を実施。

の整備、公衆衛生施策  
10年代以降、老化の

融合研究を推進する。将来的に、老化はあ者、および産官民の関

融合研究を推進する。将来的に、老化はあ者、および産官民の関

融合研究を推進する。将来的に、老化はあ者、および産官民の関

融合研究を推進する。将来的に、老化はあ者、および産官民の関

融合研究を推進する。将来的に、老化はあ者、および産官民の関

## 老化制御、治療に関わる研究開発の現状



老化メカニズム研究が急展開  
(老化細胞、老化関連分子 etc)

- 老化制御モダリティ（医薬品 etc）の臨床試験が複数進行中
- 海外でスタートアップが次々と設立、総額 60 億ドル以上の資金調達

参考：JST 研究開発戦略センター「加齢に伴う生体レジリエンスの変容・破壊機構—老化制御モダリティのシーズ創出へ—」2022年2月  
<https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2021-SP-06.html>